

令和元年度 第1回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨

1. 日時

令和元年5月13日(月)

午後4時00分から午後5時00分まで

2. 場所

津市教育委員会庁舎 4階 教育委員会室

3. 出席者

津市教育長 倉田 幸則

津市教育委員会委員 上島 均

校長代表

倭小小学校長 中谷 美智代

東観中学校長 森 昌彦

幼稚園代表

巽ヶ丘幼稚園長 笠井 ゆかり

保護者代表

津市PTA連合会 野田 昌志

眞部 貴子

事務局

学校教育・人権教育担当理事 田中 寛

教育研究支援担当参事 伊藤 雅子

教育研究支援課長 川原田 元

教育研究支援課主幹 伊藤 暢浩

教育研究支援課副主幹 辻 由美子

4. 事項

(1) 委員の委嘱・任命

(2) 委員紹介

(3) 会長の確認と副会長の指名

(4) 議事

ア 教科書採択の概要について

イ 津市教科用図書調査研究委員会について

ウ 教科書採択に関する公正確保の徹底について

エ 採択基準と調査員の調査実施項目について

オ 調査員の委嘱について

カ 調査研究等のスケジュールについて

5 決定事項

- (1) 令和元年度津市教科用図書調査研究委員会委員について
調査研究委員会委員は「津市教科用図書調査研究委員会委員」
(別紙1)のとおりとする。
- (2) 津市教科用図書調査研究委員会会長及び副会長について
会長を倉田幸則委員、副会長を上島均委員とする。
- (3) 教科書採択の概要について
教科書採択の概要については、「小学校の教科書採択について」
(資料1)のとおりとする。
- (4) 津市教科用図書調査研究委員会について
津市教科用図書調査研究委員会については、「津市教科用図書調
査研究委員会について」(資料2)のとおりとする。
- (5) 教科書採択に関する公正確保の徹底について
教科書採択に関する公正確保の徹底については、「教科書採択に
関する公正確保の徹底について(通知)(写)」(資料3)のとおり
とする。
- (6) 採択基準と調査員の調査実施項目について
調査員の調査実施項目については、「教科用図書採択地区におけ
る小学校で使用する教科用図書の採択基準」(資料4)を基準と
し、その調査実施項目は「小学校教科用図書の調査実施項目」(資
料5)のとおりとする。
- (7) 津採択地区での教科用図書採択について
 - ア 調査員を「調査員の委嘱について」(資料6)のとおり委嘱す
る。
 - イ 日程については、「調査研究等のスケジュール」(資料7)のと
おりとする。
 - ウ 第2回津市教科用図書調査研究委員会は、令和元年7月17
日(水)に開催する。

6 各事項の要旨

- (1) 事項(1)について
津市教科用図書調査研究委員会委員は、「津市教科用図書調査研

究委員会規約」第3条に基づき、津市教育委員会から任命され、任命書又は委嘱状が手交された。

(2) 事項(2)について

別紙1により令和元年度津市教科用図書調査研究委員会委員が確認された。

(3) 事項(3)について

「津市教科用図書調査研究委員会規約」第4条に基づき、会長が教育長であることを確認し、会長の指名によって副会長が決定された。

(4) 事項(4)について

ア 資料1により、事務局から教科書採択の概要について説明があった。教科書検定から採択、使用開始の周期について、義務教育諸学校用教科書採択のしくみについて説明された。

イ 資料2に基づき、事務局から津市教科用図書調査研究委員会についての説明があった。調査研究委員会は調査員を置いて各教科用図書見本本についての調査を行い、調査員からの調査結果の報告を受け、それをもとに教科用図書見本本の比較・検討を行い総合的な見地から選定資料を作成し、教育委員会に選定資料を提出及び調査研究結果の報告を行うという採択に至るまでの流れが説明された。

ウ 資料3に基づき、事務局から教科書採択に関する公正確保の徹底について説明があった。教科書採択関係者の確認、教科書発行者との接触を避けること、金銭や物品、供応及び労務の提供を受けないこと、教科書発行会社からの不正な申し出等があった場合には明確に断り、事務局に一報を入れること等が確認された。

エ 資料4、資料5に基づいて、事務局から採択基準及び調査員の調査実施項目についての説明があった。

また、市内8箇所で開催し、保護者及び地域の方からも教科用図書見本本についての意見を広く求め、開かれた教科書採択に努めるとの補足説明があった。

《意見》

委員：単独ということは津市の教育方針や義務教育に合っ

た教科書を選べるということなので、調査も絞って行った方がよい。例えば、子どもたちが見やすく使いやすいとか、話し合いがしやすいとか、視点を絞って調査員がより深く話し合えるように検討してほしい。

事務局：事務局としては、まず、調査員には調査項目に従ってバランスよく調査を行い、調査資料と選定案を作成していただきたいと考えております。その資料と選定案を基に、教育委員会においてどの項目に力点をおいて採択を進めるのか議論していただければと思っております。

《意見》

委員：調査研究委員会としては、莫大な資料をもらっても結局、何に視点を置いて検討すればよいのか分からないので、津市としての選定の視点がはっきりと分かるような資料を作成し提案してほしい。

事務局：御指摘頂いた内容を各調査員にも伝え、資料及び選定案も視点を明確にして作成し提案させていただきます。

オ 資料6に基づいて、事務局から調査員の委嘱について提案があり承認された。

カ 資料7に基づいて、事務局から採択までのスケジュールの説明があり承認された。第2回津市教科用図書調査研究委員会の開催日を令和元年7月17日（水）に決定した。また、予備日は7月24日（水）に決定した。

《質問》

委員：調査委員が教科書を見たい場合、移動展示会か法定展示会でしか見られないのか。

事務局：教育委員会用の見本本が5セット届いていますので、それを見ていただくことが可能です。

《質問》

委員：調査研究委員会でいろいろな結果を踏まえて、教育委員会に案をあげると思うが、2回目の調査研究委員会は1日の予定か。

事務局：1日の予定です。教育委員会の協議につきましては2日間かけて行う予定ですが、調査研究委員会につきましては

は1日で効果的に提示を行い、検討したいと思います。

《意見》

委員：前回の小学校の各教科書採択の調査研究委員会も1日で日程的には厳しかった。だからこそ視点を絞ってほしい。津市として、どのような点でこの教科書がふさわしいのか、提案する方も要点をまとめて示してほしい。その方が質問がしやすく、時間も短くてすむ。

《意見》

委員：小学校は低学年、中学年、高学年とあるので、いろいろな意見が出ることが想定されるが、1教科30分程度しか時間がとれないのなら、調査研究委員会での検討が本当に大事だということになる。

委員：教科書は教育委員会が採択するもの。採択がより適切になされるよう、調査研究委員会を設置し、調査員がきちんと調査した結果を踏まえて、教育委員会で決定することになっている。だから、調査員が時間をかけて調査した結果を、調査研究委員会に提案するということは、この教科書がふさわしいということであり、その提案に対して疑問点があれば質問をして、しっかり協議する必要がある。

事務局：今回は学習指導要領の改訂があり、プログラミング教育など今までとは違う内容が入ってくるので、できるだけ内容を絞り、最短時間での実施を考えていますが、1日と予備日という形で、予定したいと思います。

委員：極力短時間で済むように効率・効果的な提案に努め、できるだけ1日で終われるように努力する。そして、どうしても時間が足りない場合もあるので、予備日も一応設定しておく方向で進めてはどうか。

委員：予備日は残りの教科ということになるので、半日でよい。

委員：時間を設定し調査員代表にもその時間に集まってもらうので、予定通りに進めなければ調査員の代表に対して失礼である。

委員：二日間行うことは大変なことだと思う。できるだけ内容

を絞り、1日で終われる方法を考えた方がいい。時間が少なかったら、提案と質問の内容も絞れると思う。それでも何か起きて予備日を使うことは仕方がないことである。

事務局：時間が遅れて予備日にずれていくというのは、調査員の方の都合にも好ましくないと思いますので、極力、1日で終われるような設定にさせていただきます。

《質問》

委員：各教科の協議はどんな流れか。

事務局：まず、調査員の代表から各教科の発行者の特徴を説明した上で、選定案について理由と観点を含めて提案します。その提案に対して質疑を行い、調査員代表が退出した後、選定案を協議する形になります。基本は1教科ずつ協議を行います。進捗の状況を見て、調査員の説明だけを先に行い、協議を予備日に行うという調整も可能だと考えています。

委員：選定案をもう一度調査し直すということはあるのか。

事務局：今まではありません。

委員：候補は第1候補、第2候補とあげるのか。

事務局：選定案は第1候補だけです。

委員：協議では我々が認めた調査員が調査してきたことを、よほどのことがない限り認めた方がいいと思う。きちんと主旨にあっていればいいのでは。

委員：2回目の調査研究委員会はどのような流れで行うのか。

事務局：国語から書写、社会と順番に1教科30分の設定で、最終は5時を予定しています。

事務局：これだけの教科があると後になって協議というのは難しいと思います。教科書の数を見て時間を設定したいと思います。

《意見》

委員：県教委の資料はその教科の専門家を作る資料なので、各発行者の詳しい内容はその資料を見ればわかる。市教委では、後の話合いに役立つような資料を作ってほしい。

事務局：今までは県が作成する資料と、津市が作成する資料は概ね内容が同じでした。前年度の道徳の採択の時に御意見をいただいたように県の資料を参考にしつつ、津市ではどのような資料を作成するのか検討する必要があると思います。これまでのように冊子にして県と同じような資料を2部作成する方向にはならないと思います。

委員：是非、そうしてほしい。津市の教育はこの教科書で行っていくのかを代表の者が話し合う機会にすると津市の教育は鮮明になる。このような考えで調査員にも議論してもらいたい。

事務局：予備日に協議を持ち越さないように提案したいと思っております。基本的には、一日で終わるように時間設定をさせていただきます。

7 その他

・ 事務局より

参考資料である、資料8「主な根拠法令」についての紹介があった。また、津市教科用図書調査研究委員会の旅費についての説明があった。

以上、第1回調査研究委員会の議事要旨とする。

令和元年度 津市教科用図書調査研究委員会

会長

倉田幸則



副会長

上島均



令和元年度 第2回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨

1 日時

令和元年7月17日(水)

午前9時00分から午後5時20分まで

2 場所

津市教育委員会庁舎 4階 教育委員会室

3 出席者

津市教育長 倉田 幸則

津市教育委員会委員 上島 均

校長代表

倭小学校長 中谷 美智代

東観中学校長 森 昌彦

幼稚園代表

巽ヶ丘幼稚園長 笠井 ゆかり

保護者代表

津市PTA連合会 野田 昌志

眞部 貴子

事務局

学校教育・人権教育担当理事 田中 寛

教育研究支援担当参事 伊藤 雅子

教育研究支援課長 川原田 元

教育研究支援課主幹 伊藤 暢浩

教育研究支援課副主幹 辻 由美子

4 事項

(1) 開会・会長挨拶

(2) 令和元年度 第1回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨の確認

(3) 教科書展示会の報告

(4) 議事

ア 各種目別調査員会による調査結果等の報告及び令和2年度使用小学校用教科用図書採択候補について

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

(イ) 採択候補について

(ウ) 調査研究結果の検討

(5) その他連絡事項

(6) 閉会

5 各事項の要旨

(1) 事項(1)について

開会 倉田会長より開会挨拶

会長：来年度から使用する小学校の教科用図書の採択に向けて、調査員からの報告を受け、ふさわしい教科書について御協議いただきたい。長い時間になると思いますが、お世話をおかけいたします。本日は調査員の代表にも来ていただき、調査員の方々が熱心な検討をしていただいた内容を報告していただき、津市の小学生に最もふさわしい教科書はどれかということについて、忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

(2) 事項(2)について

「資料1 令和元年度 第1回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨」が承認された。

(3) 事項(3)について

事務局から「資料2 教科書展示会の報告」のとおり説明があった。来会者は140名であった。

(4) 事項(4)について

ア 各種目別調査員会による調査結果等の報告及び令和2年度使用小学校用教科用図書採択候補について

本年度は種目数が多いので、種目ごとに、各見本本の調査報告及び質疑・応答、採択候補について、調査研究結果の検討という順番で協議を行った。

なお、各教科用図書見本本の特徴を小学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表にまとめ報告した。

【国語】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査

報告があった。

委員：言語能力の育成に重点を置いたということだが、津市の子ども達にとって、順序立てて考えられる教科書が効果的であるということか。

代表：そういう判断で調査を進めた。

委員：カラーユニバーサルデザインとは、視力や色覚の面で支援が必要な子への配慮ということか。

代表：視力や色覚に支援が必要な子への配慮である。文字の配列や色と形を組み合わせることで識別できるように工夫されている。

委員：教科書によって取り扱う教材が違うが、そのことも議論されたか。

代表：国語ではどの教材を扱わなければならないということではなく、国語の目標に照らし合わせて適した教材を扱う。確かに定番教材はあるが、教科書によっては違う学年で取り扱われることもある。

委員：教科書が変わった時に、今まで取り扱っていた教材がなくなってもいいのか。

代表：教材が変わっても、教科としての目標が達せられるように指導する。教科書に出てこない作品を紹介することで読書の幅を広げることができる。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(光村：国語)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：この教科書を選んだ理由の説明をしっかりと聞くことができるように時間を配分してほしい。

委員：一覧表に何もついていないところは、◎も○もつかなかったということだと思うが、検定も通っている教科書なので、よくないという意味ではないと思うが、できれば空欄を作らない方がいいのでは。

事務局：検定を通っている教科書なので、調査項目の内容は十分満たしているという捉えである。その中でも特

に優れている項目については◎、優れているものは○とした。

事務局：前回までは冊子にして網羅的に報告を行っていたが、今回は短い時間で、分かりやすく、どの教科書のどの部分がよかったのが、一目見て分かるような資料を作ってほしいという意見を参考に作成した。空白の部分については、県が作成した資料と大きな違いはないということである。その他に津市として特に評価する項目を明記したものがこの資料である。教科の特性によって全ての項目にコメントを記入している教科もある。一覧表の表記については今後も検討していく。

委員：津市の子ども達にとって、この教科書のこの項目は優れていたということが分かるように空欄があってもいい。

光村の「国語」が選定案として決定された。

【書写】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：新しい書写)

委員：水書板はどのようにして使うのか。切り離して置いて使うのか。

代表：切り離して使える。水書板は1年間もつように作られている。各者厚み、サイズはさまざまである。ついていない教科書もある。

委員：日文の水書板も書き方等示されていていいと思う。

代表：確かに日文の水書板は立派であった。

委員：手本は光村が一番いいということだが、それでも東書を選んだということは、児童が主体的に学べる工夫がされているということか。

代 表：それが選定の一番のポイントである。

(ウ) 調査研究結果の検討

委 員：総合的な意見だが、子ども達が「とん、すう、びたっ、すう」とか「ぺたっ、うん、とん」とか、そのような言い方で書写の学習を進められるのはよい。半紙に近いワイド版を使っていることも指導者としては使いやすい。

東書の「新しい書写」が選定案として決定された。

【社会及び地図】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委 員：検討するときには何を一番大切にしたか。

代 表：社会的事象に対して見方・考え方を含め、主体的に学びながら認識を深めていくという点、さらに、本市の子ども達が調査活動も取り入れながら学べるという点である。

委 員：人権に関する記述についても検討したか。

代 表：人権的な視点については、社会科においての大切な項目であると捉えている。日文、教出については多くのページをかけて取り上げている。また、東書ではコラムのような形で取り上げている。本市の特徴を考えて記載の内容と量についても検討した結果の報告である。

委 員：拉致問題等についても検討したか。

代 表：今日的な課題としてどのような扱い方をしているか、子ども達が生きていく国際社会において、我が国の在り方がどのように記述されているか検討した。

委 員：合冊と分冊があるが、国際社会の部分は紙面としては同じぐらいあるのか。

代 表：単純にページ数の合計では図れないが、中身においては合冊でも分冊でも遜色はない。6年生の歴史編、政治国際編については4月に同時配付である。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(日文：小学社会) (帝国：楽しく学ぶ 小学生の地図帳)

委員：東京書籍は教科書と地図が連動しているということだが、その点については検討したか。

代表：教科書と地図を両方出しているのが東京書籍であるが、どの教科書も地図で調べる部分についてはマークを付けて明示されている。

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：現在使っている教科書と変更なしか。

代表：変更なし。

日文の「小学社会」と帝国の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」が選定案として決定された。

【算数】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：津市の子ども達に必要な力をどのように身に付けさせるか議論したか。

代表：次期学習指導要領で求められる、主体的で対話的で深い学びを実現するために、どのような工夫がされているかに主眼を置いて調査した。

委員：子ども達に思考力を身に付けさせるためにどのような工夫がされているか。

代表：現代の教科書は親切に作ってあるが、見開きで答えが分かるような作りにはなっておらず、思考力が身に付くように配慮されている。

委員：教科書の中に、プログラミング教育の内容は入っているのか。

代表：東書は5・6年生でプログラミングを体験しようという内容がある。自社でソフトウェアを開発しており、学校でソフトウェアを準備しなくてもプログラミングが学習できる。大日、学図は全学年で取り入れられている。ロボットを組み立ててゴールまで進める

等、パソコンを使わずに考えられる内容になっている。各社必ず取り扱われているが、全学年で取り扱うか、高学年中心に取り扱うかに分かれる。算数そのものにプログラミング的な思考が含まれる。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：新しい算数)

(ロ) 調査研究結果の検討

委員：6者ありそれぞれよい。他教科との関連等をもっと見たらよさがよく分かってくるのかもしれない。

委員：学習の内容を生活から結びつけていければいいのだが、算数の内容を学習してから生活の場面を取り入れていることが多い。教科書を開いて取り組みたくなるような紙面でなければならない。内容に大きな差がない場合はそういうところが大切である。

委員：6年生になると教科書は多くなるのか。

委員：かなり多い。薄い教科書を作っていただけると、子ども達は助かる。

東書の「新しい算数」が選定案として決定された。

【理科】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：津市の子ども達に、理科の中でどのような力を付けさせたいか議論したか。

代表：理科離れを防ぐためにも理科的な思考の流れを教科書としてきちんと明示されているか丁寧に調査した。理科は観察や実験で対象が具体的にどう変化したか、生の教材を見せることが大切であるが、全てを見せられるわけではない。そのような時、教科書やデジタル教材でしっかりと例示しているかはかなり議論した。

委員：啓林館のフラッグ&ラインとは独自のものか。

代 表：課題を解決する課程については、5者とも示されているが、啓林館のフラッグ&ラインが一番分かりやすかった。

委 員：他者と比べてどうであったか。

代 表：東京書籍も分かりやすく見やすかった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(啓林館：わくわく理科)

委 員：啓林館のICTを活用した学習活動は充実していたか。

代 表：大変充実していた。QRコードを読み込むとプログラミングソフトがダイレクトに立ち上がる等工夫されている。

(ウ) 調査研究結果の検討

委 員：選定案は現行使用の教科書と同じか。

事務局：同じである。

啓林館の「わくわく理科」が選定案として決定された。

【生活】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委 員：津市として生活科の中で特に力を入れて指導してほしいこととして大切にしたい項目はどれか。

代 表：子ども達が主体的に学べるということ。深い学びにつながるということである。その他にも1・2年生が使うので使いやすさと見やすさ。幼稚園と3年生の学習へのつながりがスムーズであるか等を大切に協議した。

委 員：QRコードを使ってアクセスするデジタル教材はどんな様子か。

代 表：どの発行者も工夫されていたが、大日本、啓林館はQRコードもたくさん掲載されていて、情報をしっかりと集められる。

委 員：国語や算数に比べて時数が少ないと思うが、1年間

の授業の中で1冊の内容は多いのか。

代 表：授業数は1週間に3時間あるので、1年間で十分終わることができる。各者、量的な違いはあまりなかった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(啓林館：わくわく せいかつ上、いきいき せいかつ下)

委 員：総合的に判断したということだが、教科書の大きさも大きな要因であったか。

代 表：大きさだけではないが、使いやすさは大きな要因である。

委 員：重さはあまり変わらないと思う。大きいと見やすい。他に啓林館のよかったところはどこか。

代 表：新学習指導要領のねらいを達成するために、子ども達が主体的に課題を持ちながら振り返りまで学習できるというところである。学習の流れが分かりやすい。

委 員：スタートブックとステップブックはよい。

委 員：3年生の理科や社会科との関係性は議論したか。

代 表：社会や理科につながる部分はたくさんあった。例えば探検に行った場所を地図で表すことなどは社会につながる。

(ウ) 調査研究結果の検討

事務局：現在東書を使っているが、啓林館に変わる。

委 員：一番見やすい。幼稚園から入学した子達が見ていてわくわくする。楽しく学べるのではないか。

委 員：理科と社会への接続と、1年生のスタートとしてよいのではないか。

事務局：QRコード、見やすさ、写真がはっきりとしているなど、1年生の子ども達にとっての分かりやすさなど、選定案として問題ない。

委 員：調査員も現行の教科書から変わるということは把握しているのか。

事務局：把握している。その上で総合的に選んでいる。

啓林館の「わくわく…せいかつ上、いきいき…せいかつ下」が選定案として決定された。

【音楽】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：教育出版は写真が見事である。このように視覚的な工夫については議論したか。

代表：議論した。子ども達は写真を見てイメージを広げることができ、曲想を持つことができるのではと考えた。教科書の限られた紙面の中で指導を行うので、大切な要素である。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(教出：小学音楽 音楽のおくりもの)

委員：2者どちらもQRコード等の2次元コードが充実している。実際にアクセスしてみたが、写真を拡大できたり、オーケストラを見せたりすることができる。作曲者についての話などもあった。

委員：外国語の歌が教科書に載っているということだが、英語の歌をそのまま歌うだけなのか。それとも意味を考えながら歌うのか。授業数が少ない中なので難しいかもしれないが、そのようなことを考えると英語との関連も図られ、いろいろな学習に広がるのでは。

代表：指導についてはこれから試行錯誤すると思うが英語に親しみが持てると思う。

(ウ) 調査研究結果の検討

事務局：現行の教科書から変更するので、かなり詳しく説明していただいた。

委員：教科書が変わると、掲載されている曲も変わると思うが影響はあるのか。

事務局：音楽は共通教材があるので大丈夫。

教出の「小学音楽 音楽のおくりもの」が選定案として決定された。

【図工】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(日文：図画工作)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：写真がよい。子ども達が図工をやりたくなる。

日文の「図画工作」が選定案として決定された。

【家庭】

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：津市の子ども達の現状と将来性を考えた時に、家庭科という教科の中で何を一番大事にして、教科書を使って子ども達にどのような力を身に付けさせていくべきかについては協議したか。

代表：家庭科は身の回りの日常生活に目を向けて、その中から課題を見つけて、どのように工夫して生活を変えていくかが大きな目的である。この目的を達成するために、子ども達にとってどの子も分かりやすい、この教科書を見れば友達と一緒に話し合いながら学ぶことができるということを大きな観点として調査を進めた。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：新しい家庭)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：現行の教科書と変更なしか。

事務局：変更なし。

東書の「新しい家庭」が選定案として決定された。

【保健】

(7) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：検討するにあたり、保健という教科の中で津市の子ども達の現状を見て、どのような力を付けていくべきか検討したか。

代表：子ども達にとって保健とは、自分とは遠い世界の学習ではなく、心と体について自分に最も近い学習であることを感じてほしい。自分の生活を基にいろいろなことを考えられるようになってほしい。保健については授業数も限られているので、分量的にたくさんある教科書よりは、程よい学習内容の教科書であることが大切である。

(4) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(学研：みんなの保健)

(9) 調査研究結果の検討

学研の「みんなの保健」が選定案として決定された。

【道徳】

(7) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：子ども達にどんな力を付けさせたいか。

代表：道徳で一番大切にしたいことは自分を見つめるということである。落ち着いて自分のことを考え、そこからその考えをどう広げるかが大切である。自分のことを考えるということ大切にしたい。そのような意味で、取り扱う教材の途中でも立ち止まり、どう思うか考えさせられる教材が必要である。

委員：前回採択した教科書はノートが付属していなかった

が、今回はそのような議論はしたか。

代 表：ノートについても議論した。今回は3者にノートがついていた。中身についても協議したが、意外に複雑であった。例えば、1つの投げかけについて、教科書の題材を2つ使うことがある。さらに、自分の考えと友達のことを書くようになっていく。結局、どう考えていいのかわからなくなる可能性がある。45分の授業の中で教科書を読み、ノートの書き込みが複雑であると子ども達にどんな考えが残るのかが心配である。教師用の指導書にはワークシートが取り出せるようになっており、必要に応じて活用できるようになっている。45分の中で自分の考えをまとめる、意見を述べる、場合によっては表現活動を行い共有する等いろいろな活動が展開される。その一つ一つについてノートを使って詳しく記録していくことは、45分の授業の中には収まりにくい。何を大切にしなければならないか考えた時、教材の内容に重点を置き協議することを確認した。

委 員：中学校の道徳の採択では、ノート付きの教科書が選ばれている。発達年齢に合わせているのでそれでいいと思う。

代 表：ノートのついていない教科書も書き込みができるように工夫がされており、適当な量となっている。

委 員：前回、小学校の道徳の教科書採択ではノートがついていない教科書を選定し、中学校の道徳ではノートがついている教科書を選定している。今回はノートの取り扱いについては説明がある。

委 員：昨年度から道徳は校内研修でもしっかりと取り組んでいる。1時間の中でいろいろなことを書かせる計画を立てている指導案もあるが、結局は十分に書かせることはできていない。授業の中で、指導者がどの部分で考えを書かせたいか、ノートの記述項目と違う場合もある。だから、柔軟に書けるものを準備

してファイルに綴じて蓄積している。小学校では1時間の授業の中で詳しく書くことはなかなか難しい。

代表：授業の中で、教師が何を書かせたいかということが大切である。既成のノートの記述欄と教師が考えさせたいこととずれてくることもある。そして、書かせることに時間がかかるのも事実である。書くことについては今後研究が必要である。

委員：自分の考えを持つこと、その考えを友達に話せること、そして、友達の考えを共感できることが大切である。自分の考えを整理するために書くことは大切であるが、津市としては小学校の子ども達に自分の思いを語れる、みんなで考えられる、そのような人間関係や子ども達の発達を促してやるということを大切にしているのではないかと感じる。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(学研：新・みんなの道徳)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：学研がよいと思う。中学校に別冊ノートが入っている経緯は。

事務局：前回の小学校道徳の採択の時に別冊ノートがつかなかった理由は、教師が教えたいことと別冊ノートの内容が違うこともある。書く内容も多く、どの学年でも使っていくのは難しいと判断した。もう一つの理由としては、ワークシートがダウンロードして使えるようになっていたので、必要に応じて活用すればよいと判断した。このようなワークシートと、普段使っているノートを工夫しながら代用できるので、小学校では当時のノートの内容では付けなくてもよいという判断であった。中学校の採択の時には、小学校の採択で別冊ノートを付けなかった理由を分かった上で協議を行った。中学校ではただ意見を交わすだけではなくて、自分が考えたこと、友達の意見

を聞いて思ったことなどをもう一度書きとめることで、自分の考えを深め、自分を見つめなおすことが発達段階の中で必要であると判断した。自分の考えを書く活動を取り入れるため、ノートの内容についても十分協議し、このノートであれば子どもにも教師にも適切であると判断し、別冊のノートがついている教科書を採択した。

委員：小学校と中学校では発達段階に違いがある。しかし、考えさせることについては同じ意味がある。調査員の協議結果では、中学校では書かせることによって考えさせることを大切にし、中学校では別冊ノートが付属する教科書を採択することにしたと記憶している。

事務局：小学校でも高学年では発達段階に応じて必要なワークシートを印刷して考えを書きファイルに綴じ、現行の教科書を効果的に活用している学校が多い。

委員：書かせることが本当に発達段階に合っているのか検討しなければならない。書くことを中心に育てていくことで、自分の思いを語れる子を育てることができるのか。自分の思いを語れるということが大切なのではないか。徐々に自分の思いを語れる力を身に付けさせていくことが大切である。

事務局：中学校でも自分の思いを語ることや、友達の見解を聞いて話し合うという学習も大切にしている。そして、書くことにより自分の考えをまとめるという学習も大切にするという判断であった。

委員：道徳に限らず今後の検討課題としてほしい。

学研の「新・みんなの道徳」が選定案として決定された。

【英語】

(7) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：英語活動から英語科へ変わるのだが、子ども達にとって文字が多いとか、記述欄が多いとかでは嫌悪感

を持ってしまう。例えば、たくさん絵が描かれていてその様子を英語で話してみるという工夫があると楽しく学習できると思うが、そのような協議はしたか。

代表：教科書を使って無理なく自然に指導できることを大切に協議を行った。英語を教える先生がまだまだ指導に対して発展途上である。子ども達も今までの英語活動から英語科への過渡期でもある。まずは、教科書のサポートを受けながら子ども達と先生が無理なく学習を進められるように協議した。そのためには、内容がたくさん詰め込まれている印象の教科書は避けたいという考えである。

委員：ニューホライズンは中学校でも使っているのか。

代表：ニューホライズンを使っている。

委員：時間を確保することが大切である。短時間学習で1時間分を確保する学校もあると思うが、短時間学習でも対応できるような構成になっているか、それとも、1時間（45分）をかけて取り扱う構成になっているのか。

代表：教科書によって違いが、短時間でできるところと1時間をかけて指導するところに分けられているものがある。しかし、短時間で指導できることも意識して調査した。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：NEW HORIZON Elementary English Course)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：東書でいいと思う。他の教科書と比べて圧迫感もなく見やすい。改めて教科書を見てみると小学校の英語は大変だと感じる。評価の観点は決まったのか。

事務局：評価の観点はまだ国も検討中である。

委員：中学校のスタート時点で、40%の生徒が英語を嫌と答えている。覚える単語が多いとか、表現がたく

さんあって難しいとか、いろいろな理由がある。まずは、中学校に来る前に英語嫌いを増やさないように強く思う。しかし、英語嫌いが増える可能性もある。塾でも英語学習に関して指導するようになってくる。そうすると、本来の趣旨からずれてくることもある。そちらの方が心配である。選定案の教科書は圧迫感がないし別冊もまとまっていて使いやすい。中学校もニューホライズンを使っているのでもいいと思うが、この教科書をどう活用するかが大切である。

事務局：今は小学校でウィキャンやレッツトライを使っているが、それらも今回の教科書のような感じである。イメージとしては今指導している流れに近い。

委員：中学校の教師がこの教科書をどれだけ知るかも大切である。

委員：教科書展示会で見本本を見て、ウィキャンも結構難しいと感じていたが、さらにハードルが高くなっていると感じた。授業はALTに入ってもらい、教師がT1として楽しい授業にしようと頑張っているが、それぞれの教師の指導にかかっている。本当に楽しそうにしようと頑張っている人と、教え込んでしまう人がいる。子どもを英語嫌いにしないため、教科書を使ってどれだけ授業を工夫していけるかが大切である。この教科書はよくできていると思った。教科書に載っている活動を今小学校でも取り入れている。また、話したいことを探せる、参考にできる構成になっている。中学校でも使用している教科書なので、少しでも英語に対するハードルを下げることができ、中学校への接続がスムーズになると思う。

委員：小学校も中学校と同じで4技能5領域で書く活動も行うのか。また、評価は数字で行うのか。

事務局：4技能5領域である。書く活動もなぞって書くような活動になる。評価は数字で行う予定である。5・6年生に行ったアンケートの結果を見ると、子ども

達が小学校でもっと英語を教えてほしいという意見が多かった。具体的にはもっと単語を教えてほしいとか、英語でもっとコミュニケーションを図りたいという意見が多かった。このような、もっと英語を話したいとか学習したいという気持ちを中学校に繋げていきたい。英語嫌いを作らないようにしたい。

委員：嫌いでももっと英語を話したいとか、もっと読めるようになりたいと思う気持ちがある。8割を超えるぐらいの生徒がそのような気持ちを持っている。それぞれ、英語とのいろいろな出会いがあるのだが、行き詰って半分ぐらいの生徒が英語に対して嫌になる。英語を教科にすることでうまくいけばいい。

委員：3・4年生が大事だと思う。本当に英語に親しませる、楽しませることができれば上手くいく。3・4年生で英語に親しませ、楽しませないと5年生になった時に本当に英語嫌いになってしまう。話したいという気持ちはあるのだから、普段からALTと話す機会を作るとか、学活でも英語を使ってみるとか、英語で話す場面をたくさん作ってあげればいい。楽しい活動から始まっていかなければならない。

事務局：ニューホライズンはデジタル教材が充実している。それは重要なことである。英語の教員免許を持っていなくて、英語が堪能ではない小学校の教師にとって、英語を指導しなければならないことについては、大変不安な気持ちを抱く。訪問した学校で上手に英語を指導している教師は、デジタル教材を有効に活用している。その結果、教師も授業を楽しんでいるし、子どもも楽しそうに授業に参加している。参観した教師も最初から上手に英語を指導できたわけではなく、津市が主催する英語指導の研修会に毎月参加し、デジタル教材の活用の仕方や、スモールトークの取り入れ方を学んだりして、授業改善に取り組んでいる。ニューホライズンのデジタル教材の有効

な活用方法について事務局でも研究し、学校に伝えていかなければならない。

委員：小学校では英語を楽しんでいる。中学校でも楽しい授業を実践しなければならない。

事務局：小学校ではコミュニケーションが中心である。文法は分かっていないが、意味は分かっている英語での会話を楽しんでいる。

委員：評価がどうなるかが大きい。英語での会話を楽しんでいけばいいというような評価であれば、そのような授業も可能になるのではないか。

東書の「NEW HORIZON Elementary English Course」が選定案として決定された。

(5) 事項(5)について

その他連絡事項

調査員からの報告と調査研究委員会での協議内容を、8月20日(火)及び8月26日(月)の教育委員会に報告することが承認された。

また、教育委員会には、事務局員とともに調査員代表も出席し、調査結果等について報告することが確認された。

(6) 事項(6)について

閉会


事務局から閉会挨拶

理事：長時間にわたり熱心に御協議いただき誠にありがとうございます。改めて教科書を見直すと、QRコード、ICTを活用したコンテンツが非常に増えている。今後、これらの映像や音声をいかに取捨選択し、授業の中でどのように活用していくかが問われてくる。教科書が採択された時点で、各学校では新たな授業づくりに取り組んでいかなければならない。教育委員会事務局も各学校をサポートしていかなければならないと強く感じている。みなさまには公正で適正な調査・研究を行っていただきました。今後も津市の教育につきまして、御指導御助言をいただきたい。本日は誠にありがとう

ございました。

以上、令和元年度 第2回 津市教科用図書調査研究委員会の議事
要旨とする。

令和元年度 津市教科用図書調査研究委員会

会 長 倉田幸則 
副会長 上島均 